

会 議 録

会議の名称	行田市都市計画マスタープラン第4回策定委員会
開催日時	平成24年8月2日(木) 開会：午後1時30分 閉会：午後3時40分
開催場所	行田市産業文化会館2階 第2会議室
出席者(委員) 氏名	酒井建二 宮本伸子 柿沼貴志 秋山佳子 小河原勝美 橋本好司 秋山量一 小林康男 野中昭夫 山崎孝子 白井裕泰 細井保雄 川田英一 荒井文之助 今村武蔵 井上光広 野村正幸 鈴木英樹 正田行夫 大久保毅 富岡誠 (名簿順・敬称略)
欠席者(委員) 氏名	吉田豊彦 町田光 長原順子 (名簿順・敬称略)
事務局・担当課	【都市計画課】岡村課長 青山主幹 金子主査 横倉主任 金古主任
会議内容	議事 (1) 第3回策定委員会の振り返り (2) 全体構想に係る分野別方針について
会議資料	(資料名・概要等) ・ 次第 ・ 資料1 都市計画マスタープランの構成 ・ 資料2 第3章 将来都市像 ・ 資料3 第4章全体構想(分野別の整備方針) ・ 参考資料1 第3回策定委員会(4/12)のご意見に対する対応表 ・ 参考資料2 第2章 都市の現状と課題 ・ 参考資料3 行田市都市計画マスタープラン策定委員会 会議日程(予定)
その他必要事項	

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・委員長あいさつ ・会議を公開とすることを決定する ・傍聴人12名の入室を許可する
委員長	<p>審議</p> <p>それでは、暫時、議事の進行を務めさせて頂く。皆様には、ご協力の程よろしく願います。</p> <p>それでは、早速、議事に入りたいと思う。次第3の第3回策定委員会の振り返りと全体構想に係る分野別方針について、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>■資料2、資料3、参考資料1、参考資料2を用いて事務局から説明する。</p>
委員長	<p>一括して説明頂いたが、内容が多岐に亘るため、分けてご意見を頂きたい。</p> <p>まず、参考資料1第3回策定委員会のご意見に対する対応表についてご意見を頂きたい。</p> <p>特にご意見が無いようであれば、資料2将来都市像、参考資料2都市の現状と課題についてご意見を頂きたい。資料2将来都市像については前回議論したところであるが、私の印象としては、内容に過不足なく、的確にまとめて頂いていると思う。</p>
委 員	<p>資料2の7ページ右下の図、これからのまちづくりについて、既存の市街化区域の中で、都市拠点2箇所は良いが、それ以外の市街化区域の大部分は現在よりも整備の度合いを落とすのか。そのような意味で集約という表現にしているのか。</p>
委員長 事務局	<p>私も気になるところではあるが、事務局の意見としてはどうか。</p> <p>既存の市街化区域の中の拠点としては2箇所あるが、他の地域の整備の度合いを落とすということではない。それぞれの拠点と地域の特徴のあるところを機能や様々な面で集約しながら、線で結んでいくという都市づくりを行っていきたい。これまで整備計画があったものを無くして集約していくといったことではない。</p>

委員	<p>そうだとすると、これまでのまちづくりは人口増を前提に、成長と拡大を基調としたまちづくりであり、今回は環境負荷の少ない集約連携型の都市づくりを行うという方針と逆行し、さらに拡散型のまちづくりを行うように見えてしまう。</p>
事務局	<p>資料2の7ページ右下の図に落とした地域のコミュニティ拠点というのは、地域公民館の付近を示している。行田市は合併を繰り返して、地域毎のコミュニティを持っている。そういった地域コミュニティは維持しながら、都市拠点として市街化区域に都市機能を集約させ、それぞれの地域を結びつけるといったイメージである。</p>
委員長	<p>確かにその通りではあるが、この図と説明を読む限りでは、正田委員がおっしゃるようなイメージを払拭できない部分がある。</p> <p>市街化調整区域の農村集落についても、例えば、武州荒木駅前の充実等を行いながら周辺の農村集落の利便を向上させる、道路等の整備によりネットワークをつくりながら利便の向上を図っていく、地域コミュニティ拠点の中に身の回りの商業施設等を充実していくといった文言も記述されているが、そういったことが可能なのか、実際に施策を実施するのかといったことが、問題となってくるのではないか。</p>
事務局	<p>例えば、集約型という中では、これまでの住宅系の地域で日用品を購入するような店舗が比較的立地できない第一種低層住居専用地域等があったが、今後の高齢化社会や歩いて暮らせるまちづくりに向け、ある程度の街区の中でそのような店舗が立地できるような施策も考えられるため、都市計画マスタープランの中でも活かしていきたい。</p>
委員長	<p>具体的には、市街化調整区域の中で地区計画を策定していくといったことか。</p>
事務局	<p>その通りである。</p>
委員	<p>人口フレームが20年後、希望的な見方で7万人であり、現在より1万6千人減ることである。1万6千人減ることとは、現在持田地区の人口が一番多く1万3千人であり、荒木地</p>

	<p>区が3千人であるが、その地区の人口がすべてなくなるというようなイメージである。2番目に人口が多いのが長野地区の1万1千人で、埼玉地区が5千人である。この2箇所が全部なくなるというようなことが想定されるわけである。世帯にすれば約5～6千世帯なくなるということである。このようなことをある程度頭に描いて本計画を立てていかなければならない。そういった意味では、高齢化が進む中で、歩いて暮らせるまちづくりというのは重要な取組である。歩いて暮らせるということは、身の回りで用が足せるということであるが、市民の暮らしを考えた場合、そういうところに集約していかざるを得ない。人口の想定というのはそのようなイメージで考えていただくとよい。現在の計画案が実現すればすばらしいこととは思いますが、実際は、賑わいを創出するといっても、簡単なことではないことを自覚したい。</p>
<p>委員</p>	<p>これまでの議論は、人口がほぼ現状の状態でのシミュレーションを行っていたが、人口が減るということは、経済の成長もダウンすることと考えると、こういった計画は、財政的基盤も同時に果たしていけるのかという点も重要なのではないか。新規に新しいまちづくりとして範囲を広げるのではなく、現況をどう改革していくかを整理することも大事なのではないか。</p>
<p>委員長</p>	<p>まさにその通りだと思う。人口のフレームを念頭に置きながら、あまり無理をせず、きれいごとに終わらないで、実際の人口減少や少子化、超高齢化社会等の状況を見据えて、まちづくりを改革していかなければならない。計画の内容もそのようになっているが、実際の施策も検討していかなければならない。</p>
<p>委員</p>	<p>これからの超高齢化社会の時代を迎える中で、資料2の7ページこれからのまちづくりの中で、コミュニティ拠点をつくった方が良いとあるが、やはり地域は地域でコミュニティ拠点をつくった方が良いという考え方は大切だと思うため、そこに行政サービス、商業サービス、福祉サービスをどうつなげていくかが課題だと思うため、現在の福祉サービスがどうなっているのか、足りない部分はないか、といったこともチェックして頂きたい。</p>

<p>委員長 委員</p>	<p>建設的なご意見ということで承っておきたい。</p> <p>資料2の7ページこれからのまちづくりと参考資料1の1ページ一番下の記述に関わることであるが、非常に少子化が進んでおり、北河原小学校や須加小学校では、複式の学級となっている。教育は機会均等でなければならないと考えるが、このまま小学校を放っておけない。参考資料1の1ページの下から2番目の記述には小・中・高一貫教育とあるが、行田の場合高校は県立であるため難しいが、小中を東西南北、中央と中学校区にしてしまい、そこに小学校を統合するというような形のまちづくりを反映していけば、子どもの教育は行田市で受けたいと思えるまちになるのではないか。</p>
<p>委員長</p>	<p>教育施設については、都市計画の中でも、施設としてどう考えなければいけないかということが出てくるため、今のご意見も参考にして検討して頂きたい。</p> <p>他に、私の気になる点としては、まちづくりの基本理念の人の元気の中に、総合振興計画の中には入っている人材育成が外されているが、意図があるものか。都市計画マスタープランにはそぐわないということで外されているのかもしれないが、第3章には基本的なことが書かれているため、入れておいた方が良くはないか。</p>
<p>事務局 委員長</p>	<p>対応させて頂く。</p> <p>資料2の5ページの人口フレームについて、将来人口の定住人口が7万人となっているが、実際の推移からすると、上の図のように定住人口63,575人となり、それに施策展開による増加を見込んで7万人ということであるため、4ページにある定住人口と5ページの図との表現が合致していない。5ページの図の方は「自然推移による人口」のような表現にした方が良くはないか。</p>
<p>事務局 委員</p>	<p>対応させて頂く。</p> <p>都市計画マスタープランの内容がハードウェア寄りになることは承知しているが、都市のフレームだけつくれば何とかなるという時代は過ぎ去ったと思う。まちの上に人が住み、活動すること</p>

でまちの活性化が進むが、地図に描くフレームの上に、予測される6～7万人の人口がどのように入って来るのか、交流人口はどのように流れて来るのか、人間がまちの上でどういう風に動くのかといったまちのダイナミズムの様なものを描けると、新しい意味での都市計画マスタープランが出来るのではないかと。皆さん人について関心が高いため、フレームづくりだけに力を入れるのではなく、人は減っても元気なまちについて考えていけば良いのではないかと。

委員長

事務局の方で十分検討して頂きたい。確かに、都市計画マスタープランの中で、人の動きや感情といったダイナミズムを表現することはなかなか難しいが、そういった視点も盛り込んだ都市計画マスタープランになると、画期的なものになるのではないかと。

委員

根本的な話になるが、1万6千人の人口減少を前提として考えていかなければならないのか。人口増とまではいかなくとも、現状維持のためのまちづくりを議論するのか、人口が少ない中でも住みやすいまちづくりについて議論するのかが不明な部分がある。

今回の説明の中では、資料3の8ページ土地利用構想図が一番分かりやすく、イメージが付きやすい。ここは幹線道路沿道を整備する、ここは住宅を整備する、ここは産業系のものを入れていくといった個別にどこにどのような力を入れていくといったように表現していくと分かりやすい。15ページの地図についても同様で、歩いて暮らせる環境ゾーンとあるが、もちろん歩いて暮らせない地域も出てくると思う。そうなったときに、例えば南北に交通手段を整備して、歩いて暮らせる環境ゾーンまで来てもらおうというような構想イメージを図で表して議論していくと分かりやすい。15ページの中で、国道17号バイパスや125号バイパス等、通過するだけの道路になっている部分を、何とか足を止めてもらえるような方策を議論できると、都市計画マスタープランとして具体的なものになっていくのではないかと。

そのような中でも、秩父線が特に重要な役割を担っていくので

<p>委員長</p>	<p>はと思っている。あまり脚光を浴びないが、上手く活用するように構想に入れていけないか。先日も小林委員と一緒に秩父鉄道の方に行き、東武線との絡みを含めて話をさせて頂いたが、何とか未来のある方向性を皆さんで議論できると良い。</p> <p>具体的に図に表すと分かりやすいということで、第4章の方に話移ってきている。冒頭におっしゃった人口1万6千人減を前提せざるを得ないのか、それとも人口増を積極的に考えるまちづくりは考えられないのかというご意見を頂いたが、客観的な状況や将来の産業振興、雇用の確保、生活環境の整備等も念頭に置き、検討した上で人口フレームを設定しているものであるため、そこまではさかのぼって考えることはできないと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>人口フレームの数字について、納得できない部分がある。データの出どころやどのように推計したのかについて、説明を頂きたい。県南の方では人口が増えているという現状もある。</p>
<p>委員長</p>	<p>事務局から説明をお願いしたい。また、施策展開による人口増、自然推計による人口減少、交流人口とあるが、交流人口については詳しい話が出ていないため、そのあたりも含め説明をお願いしたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>昨年、上位計画に当たる第5次総合振興計画を策定し、都市計画はもとより、福祉や教育、子育て、環境といったまちづくりを進めているところである。さらに、広域的な都市計画の視点として、埼玉県が、都市計画区域マスタープランを策定している。人口フレームについては、この上位計画に即す形で設定している。参考に第5次総合振興計画の21ページをご覧頂きたい。10年間の計画であり、平成32年の行田市の人口を推計している。推計値は79,682人であり、計画の施策を実施することで人口を維持し、8万7千人の定住人口を設定している。さらに、1万3千人の交流人口を足して、10万人の交流人口を位置づけている。今回、都市計画マスタープランで推計した人口も同様の考え方に基づき、人口推計をさせて頂いた。基礎データとして国勢調査の平成17年及び平成22年のデータを用い、コーホート変化率法</p>

	<p>という推計手法により、資料 2 の 5 ページにある通り、63,575 人という自然推移による推計値を出している。これに、施策を展開することにより人口を維持する計画とし、109%の増加見込みを設定した。これを足すことで、69,413 人という推計を出し、最終的に 7 万人とした。施策展開による増加見込みは、年々増えるよう設定している。</p>
委員長	<p>上位計画にあたる総合振興計画を前提とし、それを将来に伸ばし、なるべく施策展開による増加を見込み、人口フレームの案を作成しているという説明であった。</p>
委員	<p>説明は分かるが、それは全体のフレームであり、小学校の問題にしても悲観的に見られてしまうため、1つ1つの施策を早めに打つことで、人口減少を緩和してほしい。</p>
委員	<p>前回の都市計画マスタープランの達成年度である平成 27 年の想定人口が南河原村との合併による増加分を除いて 12 万人であるが、実際は 8 万数千人に減少している。従って、人口減少は避けては通れない。想定人口を少しでも多くするためには、人が住みたいと思うまちにしていけば良い。魅力あるまちとするためには、行田市は交通アクセスや地形的な問題でハンディキャップがある。それを乗り越える魅力として、教育が一つの大きな柱になると思う。そのように魅力をつくり上げていかないと、自然増では人口は増えない。</p>
委員長	<p>前向きに検討させて頂き、都市計画マスタープランに反映できる範囲で検討して頂きたい。</p>
委員	<p>資料 2 の 6 ページに都市づくりの基本方針として、「水と緑と歴史を活かした環境負荷の少ない集約連携型の都市づくり」とあるが、この集約連携型の都市づくりについて、具体的なイメージが書き込まれていないのではないかと。例えば、スマートタウンやエコタウンのような、これからの未来の住まいのあり方のような提案をする、モデル地区のようなものを設定してはどうか。住まいだけをつくれれば良いのではなく、教育のレベルの質の向上を求めると、ソフトの施策を関連させながら、新しいモデルタウンを</p>

<p>委員長</p>	<p>提案してはどうか。そうすれば、他から人が移り住んでくれる可能性が出てくるのではないか。これからのまちづくりを示すような、具体的な提案を書き込んだ方が良いでしょう。</p> <p>モデル地区や特区を指定するという考えもあるが、特に、前谷地区については新しいまちづくりをしていくというような地区にあたるため、その中で、モデル的な取り組みを試みられてはどうか。</p> <p>他にご意見がなければ少し先に進め、資料3の全体構想についてご意見を伺いたい。</p> <p>私の印象としては、資料2の第3章に比べ、表現が抽象的で文意があまり伝わってこない印象がある。実現が難しいことは書かず、書く以上は実現の方策の例示があると説得力ある計画になるのではないかと。また、第3章の都市づくりの基本目標と第4章の全体構想に分野別の施策が出てくるが、その関係性をダイアグラム等で表示して頂けると、基本目標がどのように施策に関連しているのかが明らかになる。</p>
<p>事務局 委員</p>	<p>以前整理したものを掲載させて頂く。</p> <p>基本目標の笑顔で暮らす住みよいまちの中に、「3 子どもからお年寄りまで快適で安全・安心に暮らせるまち」とあるが、その中で、これからの超高齢化社会の中で、病院がどういう風になっていくのかについて、ご質問したい。</p>
<p>事務局</p>	<p>病院の位置付けについての質問であるが、分野別方針の中に表立って病院という言葉の位置付けはしていない。基本的な考え方としては、都市拠点の中に病院や高齢者施設、子育て支援施設等を集積していきたいという考え方である。</p>
<p>委員</p>	<p>資料3の15ページに道路・交通整備方針図があるが、2つの歩いて暮らせる環境ゾーンにどうやって来るのか。例えば、環状や放射状にバスを運行するといった画を描くと分かりやすいのではないかと。</p>
<p>委員長</p>	<p>この15ページの図は測地的に描いてあるため、ダイアグラムの表現すると良いのではというご意見である。</p>

事務局	<p>資料2の18ページ将来の都市構造の図をご覧頂きたい。これはそれぞれの目標に描いたものを串刺しにしたような図であり、19ページの右下にアクセス強化軸という凡例がある。鉄道各駅から市内に入る軸や、水と緑のネットワーク等を整理させて頂いた。ここに、さらにネットワーク軸が必要であれば、位置づけさせて頂きたい。</p>
委員	<p>資料3の15ページの道路・交通整備方針図について、現在の小中学校を基にしている通学路安全対策ゾーンと歩いて暮らせる環境ゾーンがあるが、歩いて暮らせる範囲には制限がある。青年は車に乗ってしまうと思うが、行田は地形が平らで自転車で移動しやすいこともあり、子どもたちは自転車に乗って動く範囲がある。高齢者についても、アシストが付いた車椅子等の乗り物も大分普及してきた。そのような乗り物を高齢者が手に入れやすい施策を立てると、皆さんの生活圏が広がってくるのではないか。また、間の世代については、健康ブームでランニング等を行っている。そのような活動を考慮し、なおかつ現状より大規模な学校区が出来た場合を想定し、それを生活圏ゾーンとしてまとまりを含めた将来像を描けないか。</p>
委員長	<p>事務局の方で、現段階でのご意見や考えはあるか。</p>
事務局	<p>15ページの図でお示ししているのは、現状の小中学校を中心に体系づけている。今後、ご意見のような統廃合はあり得ると想定されるが、現段階では作業部会等を通して、現状の小中学校を元に整理をしている。計画は将来に向けたものであり、本来であればその辺りも考慮していくべきであるため、教育部局の方と調整しながら進めていきたい。</p>
委員	<p>大きな要望として、国の社会福祉関連の支出が毎年1億円ずつ増えているが、税収の方は、これといった施策がないという状況である。やはり国の方も人口減少は活力がなくなるという理解であると思う。この辺りは県や市とも同じような状況であるため、人口減少はできるだけゆっくり進めるようお願いしたい。</p> <p>もう一点として、人口を流入させるための事業は早い段階で行</p>

って頂きたい。まずは人口を増やすことが大事である。上尾道路の早期開通を国や県に要望してきたが、圏央道の一部が開通し、利用できるようになった。今年度中に桶川まで開通する目処がたっている。これが、熊谷バイパスに早く通じれば良い。都市計画マスタープランの中にも入っていると思うが、県の情報を調べたところ、圏央道から鴻巣市箕田までの区間が事業決定になったということであるため、様々な交通関係を調べて実行されるものだと思う。人口減少を食い止めるためにも、資料3の8ページにあるように、これまでの意見を反映し、産業系土地利用検討ゾーンを入れて頂いた。県の調査によると、埼玉県北部に対して企業が進出したいという要望が約210ha分ある。県北の市で平均すると、行田市にも約20haのチャンスがあるということになる。しかしながら、行田市には東北道や関越道等高速道路のインターチェンジがないため、企業は加須の方に流れてしまう。企業誘致のためには、上尾道路の開通に合わせてみなみ産業団地の拡張が完了するようお願いしたい。現在は農家の継ぎ手が少ないため、安く買えるのではないか。さらに、インフラ整備のコストダウンを図れば、近隣市よりも安く優良な土地を企業に提供できるのではないか。チャンスを逃さないためにも、国交省や県とすり合わせをしながら、良いタイミングで開発ができるようお願いしたい。

また、前谷地区についても、住居系土地利用検討ゾーンとして追加して頂いた。先程〇〇委員からもご意見があったように、エコタウンやバリアフリー等を取り入れた、魅力ある住みたいまちに向けて、早めに手を打って頂きたい。

委員

人が住むためには、働く場所が必要である。資料2の15～16ページに、「時代の変化に対応した新たな産業の創出」とある。これは、喫緊の課題として、真剣に取り組んで頂きたい。また、16ページの「地域に根ざした産業の創出」については、市で推進して頂けるのか。現在は足袋蔵が観光拠点として脚光を浴びているが、行田市特有の文化である足袋を見直し、ヒントとしては活用してもよいのでは。

委員長	<p>只今のご意見に関連して、資料3の全体構想として6項目あるわけであるが、4-6に産業振興の内容を入れるべきである。現在の案では交流として観光に重点が置かれているため、産業振興による交流についても記載し、補足してほしい。全体構想の中でも、土地利用や道路交通の中に書かれてはいるが、全体をみて産業がどこに書かれているか分からないため、4-6に位置づけて頂きたい。</p>
委員	<p>資料2の.9ページ基本目標の「行田らしさが光るまち 一水と緑と歴史の継承一」とあるが、これは前々から行田市が力を入れたいところである。しかし現状をみると、忍川はあの状態である。水と緑のまちを打ち出していくのであれば、具体的に何をしていくのか。管轄の問題もあると思うが、市でできること、市民参加でできること等もあるため、具体的方針や方策があればご教示頂き、議論していきたい。</p>
事務局	<p>資料3の18ページをご覧頂きたい。水については河川の清掃、水路の浄化等について、方針2で謳わせて頂いている。河川については、周辺を含めた中で遊歩道や休憩スペースの整備等のまちづくりを整備していく方針である。例えば、主な取り組みとして川の再生に関する事業を記載している。</p>
委員	<p>行政の取り組みでは限界があると思う。行政がリーダーシップを取りながら、市民と連携して取り組んでいく必要がある。国や県に任す部分もあるが、市民一人ひとりへの教育やモラルを高める取り組みとして、リーダーシップを取れるような方策を柱において頂きたい。</p>
事務局	<p>推進の仕方としては、第6章の実現に向けての中で、市民の皆さんを巻き込みながら進めていくというような形で整理させて頂きたい。</p> <p>(5分休憩)</p>
委員	<p>これからの産業や交通も大事だと思うが、農村の集落地の存続</p>

<p>委員長</p>	<p>を危惧している。資料3の3ページ右上の図で農村部は地域生活圏に位置づけられているが、具体的にはどのように扱うのか。また、資料3の18ページ方針1)(3)では「集団優良農地として保全します」とある。国としては輸入に頼っている部分もあるが、食料はなるべく国内で自給できるよう、農業を無くしてはいけない。どのように後継者を育てていけばよいかということも重要である。農地を農地のまま保全していけるかということに危惧しているため、計画の中に具体的なプランも入れて頂きたい。</p> <p>市域のうち農地の占める割合は非常に大きく、農地を支えているのは集落地である。これについてはもう少し検討して頂き、都市計画マスタープランで記述する範囲を農政サイドと調整しながら進めてほしい。</p>
<p>事務局</p>	<p>資料3の6ページ方針4)(1)に農村集落地の生活環境の充実、(2)に農地の保全の考え方を位置付けさせて頂いている。18ページ方針1)(3)に農地及び屋敷林などの保全の促進とあるが、農地も産業の一つであり、他の課ではあるが今年度産業振興ビジョンも作成する予定であるため、こういったものと関連しながら、農業振興や農地の保全について詰めていきたい。都市計画マスタープランの中では、都市基盤整備について、内容がより具体的に分かるように盛り込んでいきたい。</p>
<p>委員 事務局</p>	<p>農地は集団化していくという考え方でいくのか。</p> <p>今ある優良農地については保全していくという考え方である。</p>
<p>委員 事務局</p>	<p>今後の営農意欲があるかといった調査も行っているが、後継者の育成についてはどうか。</p> <p>後継者の育成といった面については、都市計画マスタープランに位置づけられる範囲で、農政サイドと調整しながら検討していきたい。</p>
<p>委員長</p>	<p>資料3の6ページ(2)農地の保全に、「緑地として保全」とあるが、農地の保全に関しては、生産性がまず第一であり、その面を無視できない。表現に配慮されたい。</p>
<p>委員</p>	<p>第4章の表現は第3章を受けたものだと思うが、基本目標に対</p>

	<p>して、どれが対応しているのか関連性が分からない。第4章の冒頭に、前章との関連を整理したものを掲載した方が良いのではないか。</p>
事務局	<p>本日の参考資料1の4ページのように、体系を整理したものを掲載させて頂く。</p>
委員	<p>基本的なところに戻って恐縮だが、行田市の下水道は、農村地域も含め全て都市下水道でカバーしていくという計画か。</p>
事務局	<p>資料3の27ページ生活環境施設整備方針図に公共下水道全体計画区域を表示しているが、この計画に北部、東部の農村地域は入っていない。</p>
委員	<p>農村地域ではどういった方法で下水を処理していくのか。小規模な施設や農村下水道などのインフラ整備をしてくのか。</p>
事務局	<p>全体計画区域に入っていない地域については、合併浄化槽で処理していく。他市においては、農村集落排水等を導入している自治体もある。</p>
委員	<p>水と緑のまちとして打ち出すのであれば、農村地域でも排水の整備は重要である。</p>
委員	<p>現在は合併浄化槽の性能が向上したため、環境への影響も少なくなっている。農村部の整備は費用対効果の問題もあるため、国が合併浄化槽による整備に方針を転換したところである。</p>
委員	<p>道路や交通等、広域的な視点が必要であるが、隣接する熊谷市や鴻巣市との関係は整理していくのか。</p>
事務局	<p>都市計画マスタープラン作成にあたっては、隣接市に伺い、総合振興計画や都市計画マスタープラン、都市計画図を頂き、内容を把握した上で作成しているところである。特に、JRについては、市内に位置する駅は行田駅のみであるが、吹上駅や北鴻巣駅を利用される地域も多いため、その辺りを考慮したネットワーク軸も検討している。</p>
委員	<p>基本的な理念で環境型の都市ということを打ち出し、その後に集約連携型とあり、具体的には農村部の集約を想定しているものと思うが、全体構想の中で、それに関する具体的なイメージの記</p>

事務局	<p>述が乏しいのではないか。資料3の6ページ方針4)に「地域生活圏を充実させる」とあるが、具体的にどういうものか。ソフトも含めたネットワークも含むのか。重要なポイントであるため、もう少し議論が必要なのではないか。</p> <p>資料3の11ページ方針1)(3)公共交通ネットワークの充実、12ページ方針2)(2)利便性を高める交通環境の充実に記述はしているが、もう少し具体的に詰めていきたい。</p>
委員	<p>私の感覚では、資料2の17ページにある「基本目標4 市民一人ひとりが主役のまち」というフレーズに違和感がある。「主役」ではなく、「主体性をもって参加する」等といった表現に変えた方が良いのではないか。</p>
委員長	<p>皆さまの印象はどうか。伝えたいことが上手くキャッチフレーズに表現できるよう、事務局で検討して頂きたい。</p> <p>これまで議論して頂いたことについては重要な内容もあがっているため、この原案を事務局の方で検討頂き、その後承認するという流れとしたい。</p> <p>皆さんよろしいか。</p> <p>「異議なし」の発言あり。</p> <p>それでは、次回に修正(案)を提示することにする。</p> <p>以上をもって、議長の職を解かせていただく。議事進行にご協力いただき感謝する。</p> <p style="text-align: center;">議事審議終了</p>